



フライトシミュレーター装置の拡充：経過報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター 公開日: 2016-04-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 溝端, 一秀, 棚次, 亘弘, 笹山, 容資 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10258/00008692

フライトシミュレーター装置の拡充：経過報告

著者	溝端 一秀, 棚次 亘弘, 笹山 容資
雑誌名	室蘭工業大学航空宇宙機システム研究センター年次報告書
巻	2007
ページ	63-63
発行年	2008-09
URL	http://hdl.handle.net/10258/00008692

フライトシミュレーター装置の拡充 — 経過報告

- 溝端 一秀(機械システム工学科 准教授)
 棚次 亘弘(航空宇宙機システム研究センター長, 教育研究等支援機構 教授)
 笹山 容資(機械システム工学専攻 航空宇宙機システム研究室)

航空宇宙機の飛行性能・飛行安定の予測・検証や、誘導・制御系の設計およびその性能の検証を目的として平成 18 年度にフライトシミュレーター装置を導入した。当初の仕様としては、双発小型ジェット機（CRJ200, Learjet45）の飛行を世界中の主要空港および主要航空路で模擬でき、外界表示として 1 画面（視界 45 度）を装備していた。平成 19 年度は、航空機の機首を模擬したコックピットカバーを設置すると共に、外界表示を 3 画面（視界 135 度）に拡充した。これによって、一層臨場感溢れる飛行シミュレーションが可能となり、飛行力学の実習授業の効果が促進されると共に、小型超音速飛行実験機の飛行性能・飛行安定の直截的な把握が容易となる。

今後、6 自由度飛行力学計算システムを自主構築しフライトシミュレーターに統合することによって、風試による空力特性データやエンジン性能の予測データを用いて小型超音速飛行実験機の飛行性能・飛行安定や誘導・制御系の研究・開発に活用する計画である。



(1) 外観



(2) コックピット内部

図 1：拡充されたフライトシミュレーター装置



図 2：フライトシミュレーター装置を用いた小型超音速飛行実験機の研究・開発手順